

くすりのしおり

621520001

2009年10月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：ベリプラスト P コンビセット 組織接着用

主成分：フィブリノゲン（Fibrinogen）
ヒト血液凝固第 XIII 因子（The factor XIII）
アプロチニン液（Aprotinin）
日局トロンビン（Thrombin）
日局塩化カルシウム（Calcium chloride）

剤形：凍結乾燥（2 バイアル）・液（2 バイアル）、使用時液剤

シート記載：



この薬の作用と効果について

血液が固まる作用を応用した生理的な組織接着剤です。血液内のフィブリノゲン、血液凝固第 XIII 因子、トロンビン、カルシウムイオンが作用すると、フィブリンと呼ばれる凝固物質を生成しますが、ベリプラスト P コンビセットはこれらの成分から構成されており、更にフィブリンの溶解を防ぐためにアプロチニンが加えられています。

通常、外科手術の際に、組織の接着・閉鎖を目的として使用されます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。牛を原料とする製剤に対し過敏症の既往例がある。貧血、免疫不全または免疫低下状態（感染症にかかりやすいなど）である。
- ・ 妊娠または授乳中。
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ あなたの用法・用量は<< >>：医療担当者記入>>
- ・ フィブリノゲン溶液（A 液）とトロンビン溶液（B 液）を調製し、必要部位に 10cm²あたり各液 1mL を重層または混合して、滴下したり、噴霧したりして使用します。

生活上の注意

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、発熱、黄疸などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 呼吸困難、血圧低下、蕁麻疹 [ショック]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・ 血液を原料とした製剤なので、感染症を防止するために原料血漿の検査やウイルスの不活化・除去処理を行っています。ウイルス感染、プリオン感染の可能性を完全に否定することはできません。現在までにこの薬剤が原因とされる感染は報告されていません。
- ・ 病院で患者の氏名、住所を記録し 20 年間保存され、調査上必要と認められた場合には医薬品会社などへ提供することがあります。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

くすりのしおり

621520001

2009年10月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：ベリプラスト P コンビセット 組織接着用

主成分：フィブリノゲン（Fibrinogen）
ヒト血液凝固第 XIII 因子（The factor XIII）
アプロチニン液（Aprotinin）
日局トロンビン（Thrombin）
日局塩化カルシウム（Calcium chloride）

剤形：凍結乾燥（2 バイアル）・液（2 バイアル）、使用時液剤

シート記載：



この薬の作用と効果について

血液が固まる作用を応用した生理的な組織接着剤です。血液内のフィブリノゲン、血液凝固第 XIII 因子、トロンビン、カルシウムイオンが作用すると、フィブリンと呼ばれる凝固物質を生成しますが、ベリプラスト P コンビセットはこれらの成分から構成されており、更にフィブリンの溶解を防ぐためにアプロチニンが加えられています。

通常、外科手術の際に、組織の接着・閉鎖を目的として使用されます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。牛を原料とする製剤に対し過敏症の既往例がある。貧血、免疫不全または免疫低下状態（感染症にかかりやすいなど）である。
- ・ 妊娠または授乳中。
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ あなたの用法・用量は<< >>：医療担当者記入>>
- ・ フィブリノゲン溶液（A 液）とトロンビン溶液（B 液）を調製し、必要部位に 10cm²あたり各液 1mL を重層または混合して、滴下したり、噴霧したりして使用します。

生活上の注意

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、発熱、黄疸などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 呼吸困難、血圧低下、蕁麻疹 [ショック]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・ 血液を原料とした製剤なので、感染症を防止するために原料血漿の検査やウイルスの不活化・除去処理を行っています。ウイルス感染、プリオン感染の可能性を完全に否定することはできません。現在までにこの薬剤が原因とされる感染は報告されていません。
- ・ 病院で患者の氏名、住所を記録し 20 年間保存され、調査上必要と認められた場合には医薬品会社などへ提供することがあります。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

くすりのしおり

621520001

2009年10月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：ベリプラスト P コンビセット 組織接着用

主成分：フィブリノゲン（Fibrinogen）
ヒト血液凝固第 XIII 因子（The factor XIII）
アプロチニン液（Aprotinin）
日局トロンビン（Thrombin）
日局塩化カルシウム（Calcium chloride）

剤形：凍結乾燥（2 バイアル）・液（2 バイアル）、使用時液剤

シート記載：



この薬の作用と効果について

血液が固まる作用を応用した生理的な組織接着剤です。血液内のフィブリノゲン、血液凝固第 XIII 因子、トロンビン、カルシウムイオンが作用すると、フィブリンと呼ばれる凝固物質を生成しますが、ベリプラスト P コンビセットはこれらの成分から構成されており、更にフィブリンの溶解を防ぐためにアプロチニンが加えられています。

通常、外科手術の際に、組織の接着・閉鎖を目的として使用されます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。牛を原料とする製剤に対し過敏症の既往例がある。貧血、免疫不全または免疫低下状態（感染症にかかりやすいなど）である。
- ・ 妊娠または授乳中。
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ **あなたの用法・用量は** << >> **：医療担当者記入**
- ・ フィブリノゲン溶液（A 液）とトロンビン溶液（B 液）を調製し、必要部位に 10cm²あたり各液 1mL を重層または混合して、滴下したり、噴霧したりして使用します。

生活上の注意

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、発熱、黄疸などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 呼吸困難、血圧低下、蕁麻疹 [ショック]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・ 血液を原料とした製剤なので、感染症を防止するために原料血漿の検査やウイルスの不活化・除去処理を行っています。ウイルス感染、プリオン感染の可能性を完全に否定することはできません。現在までにこの薬剤が原因とされる感染は報告されていません。
- ・ 病院で患者の氏名、住所を記録し 20 年間保存され、調査上必要と認められた場合には医薬品会社などへ提供することがあります。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

くすりのしおり

621520001

2009年10月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：ベリプラスト P コンビセット 組織接着用

主成分：フィブリノゲン（Fibrinogen）
ヒト血液凝固第 XIII 因子（The factor XIII）
アプロチニン液（Aprotinin）
日局トロンビン（Thrombin）
日局塩化カルシウム（Calcium chloride）

剤形：凍結乾燥（2 バイアル）・液（2 バイアル）、使用時液剤

シート記載：



この薬の作用と効果について

血液が固まる作用を応用した生理的な組織接着剤です。血液内のフィブリノゲン、血液凝固第 XIII 因子、トロンビン、カルシウムイオンが作用すると、フィブリンと呼ばれる凝固物質を生成しますが、ベリプラスト P コンビセットはこれらの成分から構成されており、更にフィブリンの溶解を防ぐためにアプロチニンが加えられています。

通常、外科手術の際に、組織の接着・閉鎖を目的として使用されます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。牛を原料とする製剤に対し過敏症の既往例がある。貧血、免疫不全または免疫低下状態（感染症にかかりやすいなど）である。
- ・ 妊娠または授乳中。
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ あなたの用法・用量は<< >>：医療担当者記入<>
- ・ フィブリノゲン溶液（A 液）とトロンビン溶液（B 液）を調製し、必要部位に 10cm²あたり各液 1mL を重層または混合して、滴下したり、噴霧したりして使用します。

生活上の注意

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、発熱、黄疸などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 呼吸困難、血圧低下、蕁麻疹 [ショック]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・ 血液を原料とした製剤なので、感染症を防止するために原料血漿の検査やウイルスの不活化・除去処理を行っています。ウイルス感染、プリオン感染の可能性を完全に否定することはできません。現在までにこの薬剤が原因とされる感染は報告されていません。
- ・ 病院で患者の氏名、住所を記録し 20 年間保存され、調査上必要と認められた場合には医薬品会社などへ提供することがあります。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。